

フューチャーアース日本委員会 の意義

日本学術会議連携会員
総合地球環境学研究所教授

浅利美鈴

日本

■ FE日本委員会

- 共同委員長：谷口真人/地球研、山本百合子/イオン環境財団、
- 事務局長：浅利美鈴/地球研、副事務局長：江守正多/東京大、山内太郎/北海道大
- 参加機関（41機関）

- 北海道大学
- 北海道教育大学(函館校国際地域学科)
- 東北大学
- 茨城大学
- 千葉大学
- 国連大学(サステナビリティ高等研究所)
- 政策研究大学院大学(政策研究科)
- 東京大学(未来ビジョン研究センター)
- 慶応義塾大学(大学院政策・メディア研究科)
- 名古屋市立大学
- 名古屋大学(フューチャー・アース研究センター)
- 中部大学
- 三重大学(大学院 生物資源学研究所)
- 京都大学(学際融合教育研究センター Future Earth研究推進ユニット)
- 鳥取大学(国際乾燥地研究教育機構)
- 広島大学(FE・SDGsネットワーク拠点(NERPS))
- 高知工科大学(フューチャー・デザイン研究所)
- 九州大学(持続可能な社会のための決断科学センター)
- 長崎大学
- 琉球大学SDGs推進室
- (一社)SDGs市民社会ネットワーク
- CSOネットワーク
- LUCKY Fountain 有限会社
- 4Revs
- イオン環境財団
- イクレイ日本
- 一般社団法人SWITCH
- グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
- サラヤ株式会社
- リモート・センシング技術センター(RESTEC)
- 宇宙航空研究開発機構(JAXA)地球観測研究センター(EORC)
- 科学技術振興機構
- 花王株式会社
- 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
- 国立環境研究所
- 総合地球環境学研究所
- 地球環境戦略研究機関
- 日本科学未来館
- 日本学術会議
- 認定NPO法人Malaria No More Japan
- 文部科学省(研究開発局環境エネルギー課)

■ 日本学術会議

- フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（沖大幹）
 - フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 地球環境変化の人間の側面分科会（谷口真人）
 - フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 SDGs の進捗評価分科会（蟹江憲史）
- 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP 合同分科会（春日文子）
- 国際委員会フューチャー・アースの国際的展開対応分科会（谷口真人）

■ 国際事務局日本ハブ

- 事務局長：春日文子/長崎大学、副事務局長：Ria Lambino/地球研
- サイエンスオフィサー7名/コミュニケーションズオフィサー1.5名/アドミオフィサー1.5名

■ 支援機関（13機関）

- 日本学術会議
- 総合地球環境学研究所
- 国立環境研究所
- 東京大学
- 文部科学省
- 慶應義塾大学SFC研究所
- イオン環境財団
- 花王株式会社
- 一般財団法人リモート・センシング技術センター
- サラヤ株式会社
- 北海道大学
- 長崎大学
- 九州大学

■ 日本のグローバル研究ネットワーク拠点・Steering Committeeメンバー



Global

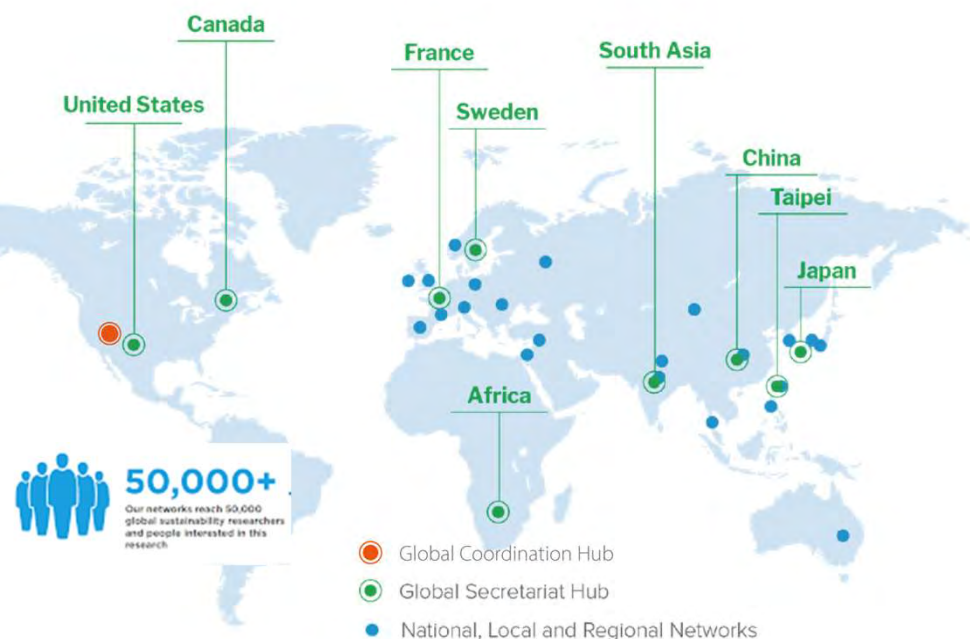
■ 拠点

■ 19 国内・準国内委員会 (FE日本委員会他)

■ 1 地域委員会 (アジア)

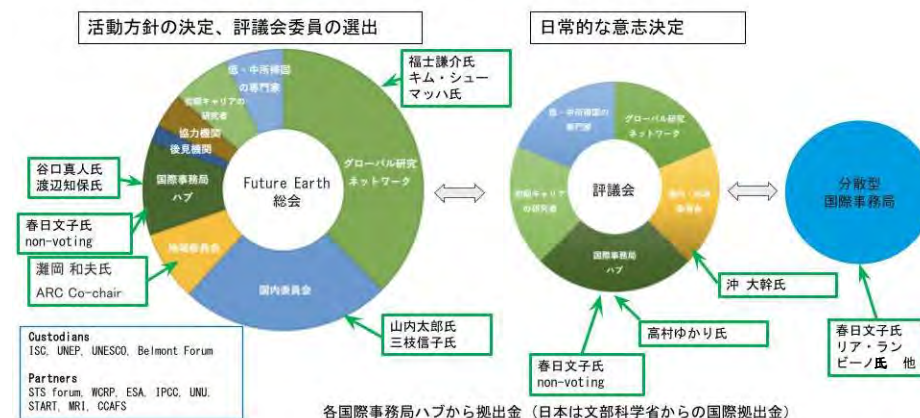
■ 1 国際コーディネーションハブ

■ 9 国際事務局ハブ (国際事務局日本ハブ他)



国内・準国内委員会: Australia, Austria, China, Finland, Germany, France, India, **Japan**, Korea, Mongolia, Philippines, Romania, Russia, Spain, Switzerland, Taipei, Thailand, UK

■ ガバナンス



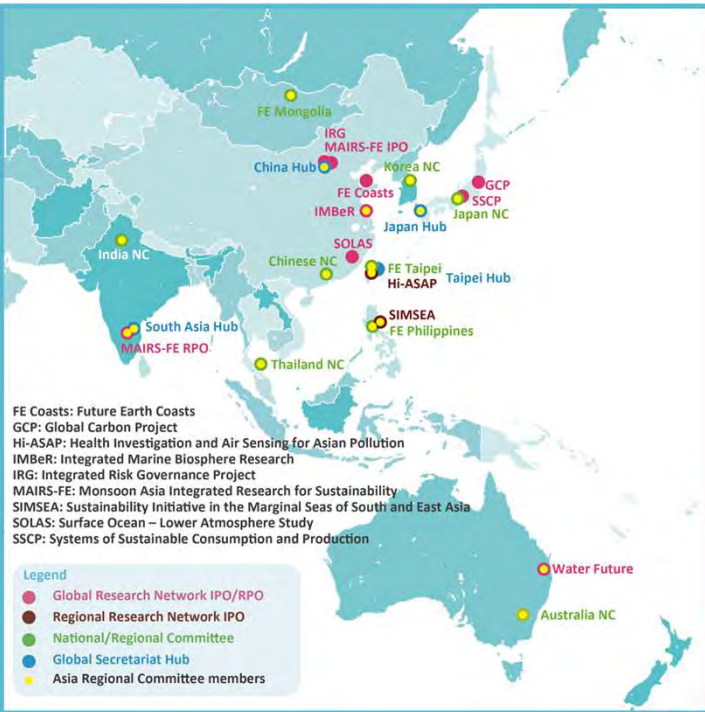
■ グローバル研究ネットワーク (25)



アジア

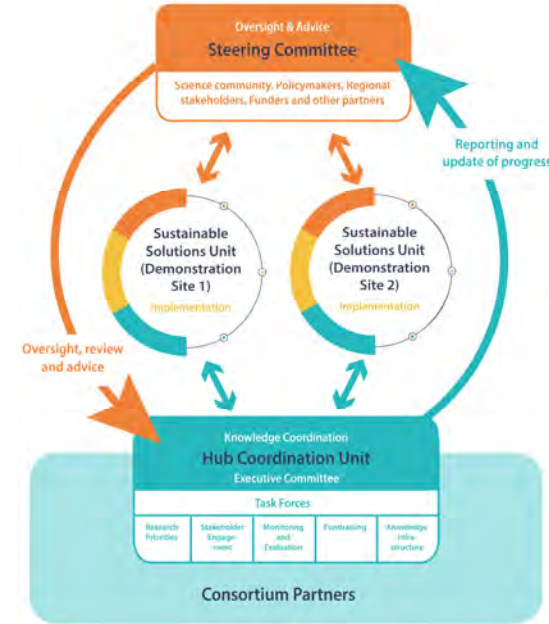
■ アジア地域委員会 ●

- Co-chairs: Anik Bhaduri 灘岡 和夫
- メンバー：
 - ・ 9 国内・準国内委員会
 - ・ 7グローバル及び地域研究ネットワーク
- 事務局：4在アジアFE 国際事務局ハブ (FE国際事務局日本ハブ、同南アジアハブ、同台北ハブ、同中国ハブ)



■ Asia Science Mission 仁シアティブ

- ISC グローバルサイエンスミッションパイロットに選出 (1/27公表、2/250)、3月より研究資金助成機関と交渉を開始
- ISC アジアフラッグシッププロジェクトに認定:共同設計フェーズ第1年次: 503,800AUD(受入機関: FE日本ハブ/地球研経由)
 - 資金助成: 国際科学会議アジア太平洋地域フォーカルポイント/オーストラリア学術会議
- 参画組織: FEアジアコンソーシアム (リード: FEアジア ≡ FEアジア地域委員会 (FE日本委員会含む)、パートナー: 地球研, APN, オーストラリア国立大学Fenner校)
- 事務局: 3アジアFE 国際事務局ハブ (日本、南アジア、台北)



■ FEクロスカッティング研究

- テーマ: 持続可能で強靱な農業システムにおける投資機会開拓への解決志向のアプローチ
- 計50,000 Euro (FY 2024, 25, 26)

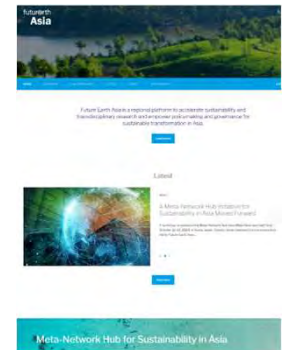
■ アジア地域に特化したFE研究プロジェクト

<FEグローバル研究ネットワーク>

- Monsoon Asia Integrated Research for Sustainability – Future Earth (MAIRS-FE)

<FE公式地域研究ネットワーク>

- Hi-ASAP: Health Investigation and Air Sensing for Asian Pollution (Hi-ASAP)
- Sustainability Initiative in the Marginal Seas of South and East Asia (SIMSEA)



新 FE Asia ウェブサイト
<https://asia.futureearth.org/>

FE日本委員会の活動① 年次サミット開催

- 2025年2月9-10日@地球研
- プレナリー & 6つの分科会
- ポスター発表や懇親会による交流
- 参加者: 学術コミュニティ、企業、行政機関、NPO/NGO、市民団体などから70名以上が現地に参集 ※オンライン参加者も含め100名以上が議論に参加



2025年2月9-10日 (日-月)
ハイブリッド開催: 総合地球環境学研究所 + ZOOM

futurearth
Research. Innovation. Sustainability.

第4回 FUTURE EARTH 日本サミット
私たちが選ぶ未来
—地球温暖化と社会の分断の先にあるもの—

参加申込&支払フォーム
1月末締切



谷口 真人

FE日本委員会・共同
委員長、総合地球環境
学研究所・副所長



蟹江 憲史

慶應義塾大学大学院・
教授



林 健太郎

総合地球環境学研究所・
教授



山内 太郎

北海道大学・教授



江守 正多

東京大学・教授



吉川 成美

総合地球環境学研究所・
特任教授



金谷 有剛

国立研究開発法人海洋
研究開発機構・上席
研究員



白井 信雄

武蔵野大学・教授



浅利 美鈴

総合地球環境学研究所・
教授



山本 百合子

FE日本委員会・共同
委員長、イオン環境財団
・専務理事

第5回Future Earth日本サミット

主催：名古屋大学 フューチャー・アース研究センター
フューチャー・アース日本委員会

参加には事前登録・お支払いが必要です
参加費：3,000円/学生1,000円
お問合せ：第5回 FEFE日本サミット事務局
fejapancommittee@gmail.com
Tel: 075-707-2451 (平日 10:00 ~ 17:00)
登録フォーム：XXXXXXXXXXXXXXXXX
2月20日締切



未来社会の 想像と創造

2026年3月5-6日

会場：名古屋大学理学南館（坂田・平田ホール 他）

- 2026年3月5-6日
@名古屋大学
→参加・発表受付開始
- 2026年12月2-4
日(うち2日間)@慶
應義塾大学

3月5日(木)

◆13:00主催者挨拶

檜山哲哉(名古屋大学 フューチャー・アース研究センター長)

◆13:10-14:10 基調講演

講演-1「地球-人間システムの世界観と社会変容」

谷口真人(FE日本委員会・共同委員長、総合地球環境学研究所・教授)

講演-2「未利用冷熱を利用する大気中二酸化炭素直接回収(Cryo-DAC)の省エネルギー化」

則永行庸(名古屋大学 未来社会創造機構 脱炭素社会創造センター長)

◆14:10-15:40 ポスターセッション1

◆14:10-15:40 Cryo-DAC 試験設備見学(ES 総合館)

◆15:45-17:15 分科会1

分科会A「環境科学とメディアの共創」

モデレーター: 山本百合子(FE日本委員会・共同委員長/イオン環境財団専務理事)・江守正多(東京大学・教授)・長島美紀(Malaria No More Japan・理事)

分科会B「レジリエンスとケア」

モデレーター: 山内太郎(北海道大学・教授)・
アイツバマイゆふ(北海道大学・特任准教授)

分科会C「気候変動と農林水産業」

モデレーター: 中塚武・福島和彦・相木秀則(名古屋大学・教授)

◆17:15-17:45 分科会1 報告

◆18:15- 懇親会(レストラン花の木)

3月6日(金)

◆9:00-9:30 ポスターセッション2

◆9:30~11:00 分科会2 Future Earth Japan Report 2026 の議論 分科会D「Global Research Network」

モデレーター: 金谷有剛(国立研究開発法人海洋研究開発機構・上席研究員)・春日文子(長崎大学・教授)

分科会E「Beyond SDGs」

モデレーター: 蟹江憲史(慶応義塾大学・教授)・

吉川成美(総合地球環境学研究所・教授)

分科会F「Well-being/Transformation」

モデレーター: 浅利美鈴(総合地球環境学研究所・教授)・

山下潤(九州大学・教授)

◆11:00~11:30 分科会2 報告

◆11:30~11:40 閉会挨拶

佐宗章弘(東海国立大学機構 機構長補佐(産学官連携担当)/カーボンニュートラル推進室長)(名古屋大学 副総長(産学官連携担当)/未来社会創造機構長)

◆13:00~14:00 運営委員会(関係者のみ)

FE日本委員会の活動②

Future Earth Japan Report 2026

◆目的:世界的な課題は日本にとっても重要であり、日本からの解決策の提案が国際社会への貢献につながることを期待されている。FEJapan Report 2026は、未来社会に向けた課題とその解決策に関する最新の成果を、多様なステークホルダーの協働により報告書として発信することを目的としている。

◆報告書の位置づけと概要:評価書ではなく、研究者・産業界・行政・市民・メディアに向けた実装志向の短報として位置づけられる。日英各20ページ以内の構成とし、日本らしさを反映したメッセージ性を重視する。具体的な好事例を積極的に盛り込み、実践的な知見の共有を図る。

◆特徴:

- 日本におけるFuture Earth研究の特性を反映
- SDGsやIPCC等の評価書とは異なり、実践的な視点からの提案
- メッセージ例:自然との共生、脱人間中心主義、中庸性価値、脱成長、脱植民地主義、脱分離主義

• 主なテーマ:

テーマ1:Global Research Network

テーマ2:Beyond SDGs

テーマ3:Transition / Transformation / Wellbeing

FE日本委員会の意義

- 世界のFEプラットフォームとつながる日本のプラットフォーム
- ※FE:地球環境研究および持続可能性科学の流れを汲み、研究・イノベーション・社会との協働を通じて、持続可能で衡平かつ包摂的な地球社会への転換を目指す国際的な研究プラットフォーム
- 日本国内の大学、研究機関、企業、行政、NPO、メディアが、フラットに交流できるプラットフォーム(情報交換、年次サミット…) ※ユース部会も設置
 - 広く社会に働きかける発信・発熱源へ(Future Earth Japan Report 2026…)